

上越地区研究集会

1 地区研究集会の概要

- (1) 期 日 平成24年9月14日(金)
(2) 会 場 刈羽村 刈羽村生涯学習センター「ラピカ」(開会式・部会)
刈羽村農村環境改善センター (部会)
(3) 日 程

12:00	12:50	13:20	13:30	14:10	14:30	16:30
司会者 打合せ	受付	移動	開 会 式	休憩 移動	部	会

2 大会開催に向けて

柏崎市・刈羽郡の小学校長会では、ほぼ1年前の昨年秋から総務部、研究推進部、運営部、編集部、事務部の5部会を設け、本研究集会の準備にとりかかった。その際、一昨年度の妙高大会の運営を参考に、よさを踏襲する形で準備を進めた。

その一つが、部会での協議を質の高いものにするために全会員のレポートをCDに集約し、事前に配付したことである。このことは会員の事前研修とともに、司会者の当日の部会協議の柱づくりにも大いに役立った。部会では一昨年と同様に提案発表をなくし、予め司会者が用意した柱に沿ってすぐに協議が始められるようにしたからである。そのために、司会者と世話役は夏季休業中に連絡を取り合い、当日の部会運営や協議内容について準備を行った。このとき、CD版レポート集が大変有効であった。

3 研究集会の概要

(1) 開会式

来賓として、上越教育事務所長柳恒雄様、刈羽村長品田宏夫様、柏崎市教育委員会教育長大倉政洋様、刈羽村教育委員会教育長小林志郎様、新潟県中学校長会副会長佐藤忠弘様をお迎えした。

はじめに、加藤誠雄県小学校長会副会長が「成果主義が主流の現代において、点数で語るだけでなく、日々生き生きと学校に通い、成長する子どもの姿を実感する学校経営となるよう、今

日の研究集会を充実したものにしよう。」と会員に呼びかけた。

続いて、小林豊大会実行委員長が「本研究主題の三年目である。これまでを振り返り、実践の成果を検証するため熱心な協議をお願いしたい。校長としてのこれからを大いに語り合い、来年度の糸魚川大会に向けた大会にしよう。」と述べた。

来賓の柳恒雄事務所長様からは、「どこの土地にも“ふるさとの山”がある。校歌に歌われる“ふるさとの山”は、子どもが高い志をもって勉学に励むシンボルである。ふるさとの山のように校長は、信念と包容力をもちつつ、子どもの健やかな健康を願い、変化に柔軟に対応して日々学校経営にあたってほしい。」と、ご祝辞をいただいた。

また、品田宏夫刈羽村長様からは「自分の小・中学校時代という“古きよき時代”から人間も環境も変わった。子どもにきちんと指導し、成長させてほしい。校長の活躍の価値と責任は大きい。価値ある日本人を育ててほしい。」とご祝辞をいただいた。

(2) 部会協議

開会式終了後、西山義則県小学校長会研修部長が大会の趣旨について説明をし、その後10の部会に分かれて研究協議を行った。事前のCD配付、協議の柱立ての準備などの成果が表れ、日常の校長としての取組や考え、課題等について活発に意見交換がなされた。各部会とも質の高い協議会を行うことができた。